

## 第13回 善通寺市学校等再編整備討議委員会 概要

1. 日 時 令和7年11月17日（月） 午後7時～午後9時00分  
場 所 善通寺市役所4階 401～403会議室

### 2. 出席委員

片山 昭彦	委員	高畠 智	委員
畠田 裕康	委員	米村 徹	委員
大林 勇太	委員	横田 飛真	委員
西川 真有	委員	宮武 有奈	委員
徳山 恵	委員	田嶋 三枝	委員
町田 由紀	委員	山本 幾代	委員
井内 礼子	委員	大西 英和	委員
田中 康隆	委員	松村 早記	委員
草薙 めぐみ	委員	森 史郎	委員
高畠 光宏	委員		

### 3. 市側出席者

教育部長 尾松 幸夫

学校再編対策課

課長 山地 匠 課長補佐 内田 貴史 課長補佐 林 健一郎

教育総務課

課長 高畠 往立

### 4. 議 事

グループワーク 小学校の再編について

全体会議

## 5. 概要

〔事務局〕

本日は、昼間のお仕事等でお疲れのところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第13回の学校等再編整備検討委員会を開催します。片山会長、進行の方をよろしくお願いします。

〔議長〕

みなさん、こんばんは。

本日も、お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

議論がなかなか進まず、停滞している感もありますけれども、色々な意見をぶつけ、しっかりととした考え方を持ってまとめていきたいと思いますので、皆さまご協力をよろしくお願いします。

本日、うちの大学のキャンパスに竜川幼稚園の園児が来てくださいました。

人数は100名程度でしたが、その様子を見させていただきながら、人数が多くワイワイガヤガヤするのは楽しいものだと、改めて感じるとともに、こういうことを考えながら、この検討委員会に参加しないといけないと改めて思いました。

ぜひ皆さまにご協力いただきながら、頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

本日の議事は、大きく分けて2つです。

まず、前回から継続して、小学校の再編について2校案・3校案の議論をしていただきます。

その後、アンケートについて、こちらは前回に色々とご意見をいただきましたので、事務局の方で検討・改定していただきました。その内容について議論をしていただきますので、よろしくお願いします。

まず、本日の進め方と資料についての説明を事務局からお願いします。

〔事務局〕

本日の進め方を説明いたします。

今回のグループワークでは、前回に引き続き、学校をどこに配置するかは抜きにして、2校案か、3校案かについて、どちらがいいか、それをグループで議論していただきた

いと思います。それが決まれば、次に、どこに配置するのがいいか決めていくという進め方をしたいと思います。

本日、追加の資料がありますので、それも参考にして、まずはグループで、2校案か3校案かを決めてみてください。全体会議の最初に、どちらに決めたのか、その理由とともに発表していただきます。

それでは、資料説明をさせていただきますが、まずは、資料の確認をお願いします。

資料の右肩に資料番号を入れていますので、ご確認下さい。

なお、前回の検討委員会で、今回の資料として用意して欲しいと要望のあったものがこの他にもありましたが、それについては、資料説明の中で、口頭で説明させていただきます。

まず資料1は、前回のグループワークのまとめです。

次に資料2は、スクールバスの運用案、2校の場合と3校の場合で、資料2－1から2－6までの6枚をホッチキス止めしたものです。

最後に資料3、アンケートの案で、大人用の案内文と子ども用の案内文、それと小中学生用のアンケートと、保護者用、教職員用のアンケート、全部で7枚あります。

不足はないでしょうか。

それでは、資料の説明をさせていただきます。

資料1については、前回のグループワークで出た意見をまとめたものです。

内容的には特に説明の必要はありませんが、前回、2校と3校で建設コストが変わらないなら、という前提で3校案を支持する意見がありました。これについては、前回の資料があまり良くなく、説明の際にも申し上げたとおり、資料作成に当たって参考にした丸亀市と三豊市の小学校が、計算するとたまたま1m<sup>2</sup>あたりの建築金額が同じであったため、例えば児童数が1200人の場合、600人規模の学校を2校建てる場合と、400人規模の学校を3校建てる場合では、結果的に建設費用が同じ金額になってしまいます。おそらくそういう比較計算をしていただいた上でのご意見だったかと思いますが、あまり適さない資料がありました。1m<sup>2</sup>あたりの建築金額を算出するためのサンプルとなる新築の小学校が少ないのであのような結果となりましたが、やはり2校建てるよりは3校建てる方が当然建設費はかかりますので、前回の資料があまり良くありませんでした

こと補足させていただきます。

次に資料2です。こちらは、スクールバスの運用費用の資料となります。以前お示しした学校の配置案をベースにして、スクールバスのイメージを描いてみたのが資料2です。

図の見方ですが、運用案①をご覧ください。

緑の丸が現在の小学校、赤い丸が新しくできる小学校を表しており、学校名の横にあるカッコ書きの数字が、2035年の予測児童数になっています。2035年というのは、前回お示しした学校再編のスケジュール案で、1校目の小学校が開校することになっている年です。

赤い丸の新しい小学校を中心に、半径2kmの範囲を赤い線で囲んでいます。

中心の学校から、2kmを超える地域にスクールバスを手配するという想定で、青色と紫色の矢印がスクールバスのコースを表しています。青矢印は、往復で全員乗れるだろうというコース、紫の矢印は2往復以上必要だろうというコースを表現しています。

西中学校を中心とした場合、2km圏外が、南部地区の一部、西部地区の一部、吉原地区全域の3コースくらいになるのではないかと考えています。もちろん、1つのコース内にバス停が複数必要になることも想定されます。1つのコースで何人の児童がバスを利用するかは、現段階では分かりませんが、例えば、この例の吉原校区だと、校区内のほぼ全員がバス通学になると考えられますので、90人くらいの児童がバス通学になる可能性があります。

今想定しているのは、27人乗りのマイクロバスでの運用ですので、吉原地区だけで4往復必要という計算になります。ただ、4往復もしていると学校の始業時間に間に合わないので、この場合はバスが2台必要だと考えます。

また、もう1方の、東部小学校を中心とした場合は、2km圏外が筆岡地区の一部、竜川地区の一部、与北地区の3コースくらいになるのではないかと思います。筆岡地区の一部と与北地区は、それぞれ1往復でいけるのではないかと考え、この2コースはバス1台を時間差で運用するという想定をしてみました。

こういった想定のもと、費用の計算をしていますが、これは、あくまでイメージですので、実際は、2kmを徒歩通学圏として設定していいかどうかを協議する必要があります。

ます。それに、バス通学の児童が何人いるかについては、本来絶対に把握する必要があることですが、それは学校をどこに配置するか、何km以上に対して通学支援をするか等が決まってからでないとできないことですので、今回は運用費の概算を算出するためのシミュレーションということで、ご理解いただけたらと思います。

また、スクールバスを運用するとして、運用方法についても2通りお示ししています。1つ目は、バスの調達から運用まですべて業者に委託する方法です。2つ目は、バスは市で購入して運用だけ委託する方法の2通りです。図の右側に、全て委託の場合と、バスは購入の2つのパターンの費用を表示しています。

すべて委託のパターンは全国的な相場から算出しており、バスを購入するパターンは三豊市が実際に運用している実績と、南部小学校で運用しているスクールバスの実績も加味して算出しています。

ちなみに、バスを購入するパターンの内訳ですが、マイクロバスは27人乗りで1台約900万円、運用だけを委託する場合の委託料はバス1台につき1年で800万円、それに燃料代や修繕料等も発生するという想定で算出しています。

資料3については、議事のその他のところで説明させていただきます。

それから、前回の委員会にて、このような資料を用意して欲しいというものが、いくつかありましたけれども、資料としてはご用意できていませんので、口頭にて説明させていただきます。

まず、教科担任制についてですが、前回、「教科担任制をするなら3クラス以上あつた方が良い」という意見がありましたので、それに対する資料が欲しいということだったと思います。教科担任制というのは、国語の先生とか算数の先生のように、教科によって専門の先生が授業をする仕組みで、中学校では一般的になっている仕組みです。小学校は学級担任制が一般的で、クラスの担任の先生が多くの教科を受け持ちはります。教科担任制になると、例えば、国語専門の先生は自分の担任のクラスを持ちながら、他のクラスで国語の授業があれば、他のクラスでも国語の授業をします。算数の先生もそうです。そうすることで、先生の負担が1教科分だけになり、負担を軽減できることになります。現場の先生に聞いてみましたところ、3クラス以上ないと教科担任制ができないというわけではないようですが、2クラスよりは3クラスや4クラスある方が、教科担

任制を効率的に運用しやすいということのようです。それと、1学年2クラスと、1学年3クラスだと、どちらがやりやすいのかについて現場の先生の声が聞きたいと言う意見もありました。こちらも、実際に先生に聞いてみましたが、はっきりとどちらが良いという答えはありませんでした。強いて言えば、3クラスで先生3人が何かあった時の相談などがしやすいと思うということでした。

次に、「通学について、保護者の意見が知りたい」という意見がありました。保護者の意見となると、それこそアンケートでも取るしかないのですが、アンケートをするにしても、当然、学校が近い方が良いのは皆さん同じだと思いますので、アンケートの取り方に工夫が必要だと思います。ですので、保護者アンケートの質問項目に、「学校再編において重視すべき点は何ですか」という問い合わせを追加し、その回答に「通学への配慮」という選択肢を入れました。通学について不安がある方は、ここにチェックするのではないかと思います。また、この辺りに関するご意見は、「その他」のところでいただければと思います。

最後に、「1校目を建設後、2校目ができるまでの間、既存の学校の扱いについて、事務局案があれば示して欲しい」という意見もありましたが、事務局案は特にありません。ただ、新しくできる小学校には校区を設定することになりますが、その新しい校区内にある学校は、やはり閉じていくことになるのかなと思います。反対に言えば、それ以外の学校は継続していくということになろうかと思います。

資料1と資料2、それと、要望のありました件についての説明は以上になります。

次に、グループワークの進め方の補足ですが、前回と同様、次回の資料とするため、各グループの机に記録用紙を置いていますので、メモ書き程度で結構ですので、どなたか記録係をお願いします。記録は会議後に回収し、次回の参考にさせていただきます。また、グループワークの後、その記録をもとに、全体会議の最初にどなたかに発表していただきますので、発表者も決めておいてください。

それでは、片山会長、よろしくお願ひします。

〔議長〕

皆さん色々な考え方があると思いますし、多人数制の教育がいいのか少人数制の教育がいいのかなど、理念のようなものも関わってくるので、なかなか決められないとは思

います。

もし、今回、2校案・3校案で結論が出なければ、次回に何らかの結論を出すため、事務局に2校案・3校案のモデルケースをつくっていただき、年次を追いながら、クラス編成やスクールバスの本数など、細かい条件を設定していただき、2校案・3校案についてシミュレーションしたいと考えています。

しかし、できれば今回結論が出るといいと思いますので、あくまでも子ども達の視点でお考えいただき、色々な意見を出して、グループワークを進めてください。

グループワーク終了の目安としては、19時40分までとしてください。

それでは、グループワークを始めてください。

#### ～グループワーク 非公開～

##### 〔議長〕

みなさん、グループワークありがとうございました。

これからは、全体での議論をしていきます。

各グループで議論していただいた内容の発表をお願いします。

##### 〔D グループ〕

2校案が良いという意見でまとまりました。前回は、コスト的に変わらないのであれば3校案が良いのではないかという意見もあがっていましたが、少子化が進行するなかで何十年か先に同じ議論をしないように、また、3校案では2クラスキープするのが難しくなるのではないか、さらに、スクールバスのバス停を中心部に集約すれば、自分の子どもを徒歩で通わせたい親が近隣に住むようになり、中心部に人口を誘導でき、バスの運用を縮小できるのではないかというところで、2校案の方が良いという意見が出ました。子どもを中心に考えたとき、クラス替えができ、子ども達が色々な友達と交流できる経験が保証できる点、また、これまで子ども同士のトラブル・親同士のトラブル等が発生しているので、そのような場合にも複数のクラスがある方が選択肢の幅が広がる点において、2校案が良いということで意見がまとまりました。

##### 〔C グループ〕

最終的に2校案が良いのではないかという意見になりました。3校案について、資料の2-6がまとまりやすいのではないかという意見もありましたが、今後の人囗推移を考えると、2校で良いのではないかとなりました。

また、場所についてですが、東部小学校の場所にすると、学校間の距離が近く密集し、バスの運営費用が嵩むので、資料2-3が適当ではないかという意見になりました。数年前にハローズの配送センターができる予定だった場所辺りなら、通行量が集中しないのではないかという意見や、バスの運営については、長期的に見ると購入した方が良いのではないかという意見が出ました。

#### [B グループ]

スクールバスの運用案において、コスト面などを考慮して検討しましたが、前回出ているような2校案のメリットが覆ることはありませんでした。バスの運行コストを抑えられるのは3校案かもしれません、児童数等の観点から、クラス替えができる2校案の方が良いという結論に至りました。

#### [A グループ]

他のグループと同様、2校案が望ましいという結論になりました。理由としては、前回の議論の結果にある通りですが、複数クラスが維持できる規模が望ましいこと、3校目ができるのはかなり先なので、その時の状況によっては3校目を建てることが難しくなるのではないかという予想から2校案が良いと考えました。

学校の配置については、資料2-2の竜川小学校を使う案が良いのではないかという意見が出ました。また、資料2-1だと、先ほど意見が出ていましたが、距離が近すぎるという意見がでました。

それから、スクールバスの運行が2往復以上になると、受け入れる学校の先生方も苦慮されるようですし、利用者が多い路線については、28人乗りではなく、もう少し大きなバスでも良いのではないかという意見も出了しました。

#### [議長]

みなさん、ありがとうございます。

結果をまとめますと、全グループ、2校案が良いという結論になりました。ご意見が色々ありましたが、子ども達の視点での議論ということで、2校案だとクラス替えが維

持できること、3校案だと長期計画になり途中で計画の見直しをせざるを得なくなるのではないかといったことが大きな理由かと思います。

また、バスの運用については、購入した方が良いという意見もありましたが、議論の余地があると思います。

2校案について、学校の設置場所については、資料2-2・2-3辺りが良いのではという意見が出る一方、新たな場所も考えられるのではないかという意見も出ました。この他に、この意見も加えていただきたいという方はいらっしゃいませんか。

〔委員〕

特に意見なし

〔議長〕

それでは、本委員会としては、小学校は2校案ということでいきます。

これにより、中学校は1校・小学校は2校・子ども園は2園ということで進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔委員〕

特に意見なし

〔委員 A〕

2校案に決定したわけですが、次回から、資料2-1・2-2・2-3といった場所の議論になると思いますが、すぐに具体案の話になりますか。

〔議長〕

具体的な案を検討していかなくてはならないので、次回以降にどういった資料が必要かといったご意見をお伺いします。

〔議長〕

今後は、どの場所に学校をつくるのかという議論になります。中学校は東中学校の敷地に、その後、西中学校の敷地が空くので、そこに新小学校を設置するというところまでは、異論ありませんか。

〔委員〕

特に異論なし。

〔議長〕

小学校の場所については、色々な考え方がありますし、案は多岐に渡るかと思います。

次回に向けて、事務局に用意してほしい資料などありますか。

〔委員 A〕

2－1案だと、現東部小学校の敷地は借地の問題があるので、現在の借地契約に関する資料を用意していただいた方が、議論がしやすいと思います。

〔事務局〕

準備いたします。

〔委員 B〕

校区のあり方について、そもそも新たなエリアを教育委員会が考えてくれるという認識でいいですか。これまでのような8校区の考え方でいいのか、新たなエリアを教育委員会から提示してもらうのか、議論の中で、校区自由選択性もいいのではないかという意見もありましたのでお伺いします。

〔事務局〕

小学校区は、教育委員会が指定することになりますので、新たな校区を設定しお示しするようになると思います。

〔委員 B〕

現在も一部選択制になっている地域があると思いますが、その要素は残すのでしょうか。

〔事務局〕

現在、小学校については、原則として選択制を設けていません。その代わり、校区外申請を受け付けていますので、今後も、そのような方法は残ると思います。

〔委員 A〕

例えば資料2－2について、筆岡地区では西中学校敷地に設置される小学校に徒歩で通えるような地域もありますが、それでも筆岡地区すべての校区は竜川小学校になるということもあるのでしょうか。

〔事務局〕

校区分けについては、おそらく新たに設定しますので、そのようなことにはならないと思います。

〔委員 C〕

資料 2 について、学校を設置可能な土地の見込はありますか。

〔事務局〕

現在、学校用地を使う案以外はありません。既存の学校を利用する案をご提示しており、例えば資料 2-3 で筆岡小学校の敷地を使うとしていますが、確かに少し狭い可能性はあります。

先ほどの議論の中で、東部地区でハローズさんの倉庫として検討されていた土地などがあるとの話も出ましたので、そういう土地は買収の必要がありお金がかかるのですが、次回、そのような可能性も含め、学校用地の資料を次回お示しいたします。

〔委員 D〕

資料 2-3 だと、円にかかっていない地域は、全てバス通学の対象になりますか。

〔事務局〕

資料は 2 km の円を描いていますが、2 km という設定であれば、そのようになります。

〔委員 D〕

その場合、バスは何往復することになりますか。

〔事務局〕

例えば、300 人を 27 人乗りで運ぶとすると 10 往復程度の計算になりますので、それを踏まえて何台必要かなど、検討していかなくてはならないと考えています。

〔議長〕

では、次回、叩き台としての案を事務局から提示していただき、その資料を踏まえ議論しますが、その中で委員から新たな案が出てくる可能性もあるでしょうから、その辺りも含めて議論したいと思います。

〔議長〕

それでは、次に、学校再編に関するアンケートについて議論したいと思います。

まず、事務局より説明をお願いします。

〔事務局〕

アンケートについてご説明いたします。前回、前々回の検討委員会で、学校再編につ

いてのアンケートをお示ししたところ、いろいろなご意見をいただきましたので、それに基づき修正をしています。

まず、アンケート依頼文をご覧ください。依頼文を2種類に分け、ひとつは小学5・6年生と中学生用、もうひとつは保護者と教職員用としています。

依頼の趣旨は、小学生・中学生用の③にありますように、「これからもみんなが楽しく学べる学校をつくるため検討しているので、その参考にしたい」ということ、また、保護者・教職員用の依頼文2ページにありますように「すべての学校でクラス替えができる規模になるよう、学校の再編を検討しているので、その参考にしたい」ということです。なお、小学生・中学生用は、できる限り易しい文章で作成しました。

次にアンケート項目をご覧ください。

小学生用ですが、問2で、「今、学校再編になつたらどのように思いますか」と聞き、問3では、新しい学校に対する思いを聞くようにしています。小学校の再編によって、既存の学校ではなく、新しい学校の整備を考えた間にしました。

中学生用では、問2で、「今、中学校がひとつになつたらどのように思いますか」と聞き、さらに、問3で、中学校がひとつになるという前提で自由意見を求めるにしました。

保護者用では、問2で「将来的に学校再編することによる子どもへの影響」を聞き、問3で「学校再編において特に重視すべき点」を聞いています。これも、学校再編の必要性があるという前提で聞いているものです。ただ、学校再編の実施時期については、現時点ではお示しできないので、保護者の皆さんと考えを問4で聞くことにしました。

それから、教職員用では、保護者用と同様のアンケート項目にしましたが、問2、問3の選択肢は教職員用に変更しています。なお、この選択肢の作成にあたりましては、教育委員会事務局の指導主事に協力してもらいました。

このアンケートは、「学校再編の参考とするという目的」と、保護者や教職員用の依頼文に図や表を入れているように「学校再編の検討について周知するという目的」があります。

説明は以上です、ご意見等ありましたら、よろしくお願いします。

〔委員E〕

中学校について、部活動は合同部活動になっているのですが、設問2で「部活動がどうなるか心配」という質問をする特別な意図は何かありますか。

〔事務局〕

教職員用は削っているのですが、中学生用を削れていませんでしたので修正します。

〔委員F〕

前回もお話したのですが、やはりアンケートを取ることについて疑問があります。アンケートを取るのであれば、検討委員会が始まる当初、または検討委員会においてこのような方針に決まりましたという時点で取る方が、アンケートを取る意義があると思います。すでに中学校1校・小学校2校・子ども園2園という方針が決まっていて、これからその詳細を議論しようとする時期にアンケートを取るのはどうかと思います。

〔事務局〕

本アンケートは、賛否を問うようなアンケートではなく、再編するということを前提にしたものとして、再編に対してどのようなイメージをもっているのか、何を望むのか、といったことを聞く内容としています。しかし、このようなご意見をいただきましたし、皆さまの議論によっては、再度アンケートの内容について修正するという選択もあると思います。

〔議長〕

スケジュールはどのようにになっていますか。

〔事務局〕

特にスケジュール的な縛りはないのですが、アンケート結果を本検討委員会の議論の参考にしていただきたいので、できれば、年内に実施したいと考えています。

〔委員G〕

アンケートについて、尋ね方によっては子ども達を悩ませてしまうかもしれないのに、ご家庭で、親子で一緒に回答できるようなアンケートにするのはどうでしょう。

〔委員B〕

委員Fがおっしゃったように、本会で決まっている方向性に基づいた意見を求めてはどうでしょうか。固い話になりますが、こども基本法ができ、子どもの意見をちゃんと聞かなくてはならないと法律で決まっているので、今の子ども達が考えていることを

ちゃんと拾い上げる方がいいと思います。

また、例えば中学生用であれば、設問3に続き設問4として、「新たな環境がスタートすることについて何か意見はありますか」といった、これから先のこと尋ねるような質問があると良いと思います。

〔議長〕

アンケートの意義や実施方法についてご意見がありました。1点確認ですが、アンケートの集計結果について公表はどうしますか。

〔事務局〕

少なくとも市のホームページでは公表しようと考えています。

〔議長〕

アンケートの結果について、本委員会がひとつずつ答えていく形をとるわけではないですか。

〔事務局〕

その形は想定していません。

当初、中学生だけにアンケートを取る予定でご提案したところ、皆さんからご意見をいただき、小学生、保護者と対象を広げることとなった経緯があります。

また、既に方針が決まっているのに尋ねるのはどうかというご意見もごもっともだと思いますし、子ども達の声を聞いて新しい学校に活かすというご意見も、ごもっともだと思います。

やはり、学校再編は市の重要課題ですし、市民の声として、「どうなっているのか分からぬ」、「もっとアナウンスしてほしい」といったご意見もありますので、何らかの形では実施したいと考えていますが、確かに実施の仕方は検討の余地があると思います。

まず、アンケート対象についてですが、中学生と小学生はアンケートをぜひ取りたいと考えていますが、保護者・教員からアンケートを取ることについて、また、取り方と取る時期について、根本に立ち返り、どういったアンケートが良いか整理したいと思いますので今一度ご意見をいただきたいです。

〔議長〕

例えば、子ども達用のアンケートに「保護者と相談してから記入してください」とい

った内容を加える方法や、また、保護者用のアンケートに「子どもに内容を説明してあげてください」という文言を入れる方法もあります。

また、これから学校の場所などの検討に入るわけですが、具体的に方針が決まってい る内容についてアンケートを取るわけですから、今の時点で早めに取るか、全ての方針 が決まってから取るかのどちらかだと思います。

〔委員 D〕

アンケートに回答する子ども達にとっては、新しい学校ができた時には卒業している ので関係ないと感じるかもしれないが、それでもアンケートを取る意味があるということ でしょうか。

〔事務局〕

おっしゃるとおり、新しい学校ができた時には、このアンケートに答えてくれた子ども 達は卒業しているかと思います。しかし、小・中学生の気持ちを聞きたいと考えたと き、今通っている小・中学生の気持ちを聞くしか方法がないかと思います。

〔委員 D〕

一つの家庭に複数の子どもがいる場合、LoGo フォームでの回答について、一家庭で 複数回答することになりますか。

〔事務局〕

アンケート対象者ごとにということになるので、今のアンケートの形ですとそのよう になる予定です。

〔委員 D〕

親子で話し合って回答するという形であれば、回答は一つの家庭に一つでいいのでは ないでしょうか。

〔事務局〕

その場合は、おっしゃるとおり一つで良いと思います。

〔委員 B〕

今回のアンケートでは「子ども達の声を聞く」ということを大切にしていただきたい です。新しい学校ができる時には卒業しているのでしょうか、それでも、今聞かないと 聞くチャンスがないと思います。

ちなみに、これまで、教育委員会で子どもを対象にアンケートを実施したことがありますか。

〔事務局〕

テーマが限定的ですが、部活動を東西中学校で実施することなどについて、アンケートを実施したことあります。

〔委員 B〕

私が危惧しているのは、親と一緒に回答してもらうと、親が誘導してしまったり、親の意向が入ってしまったりするということです。子どもはちゃんと自分の意見を持っていると思いますので、ぜひ、子どもを対象にアンケートを実施し、意見を聞いてほしいと思います。

〔議長〕

アンケートについて色々な考え方があり、なかなか着地点が見つからないかと思いますが、このアンケートの結果により、我々の議論の方向性が大きく変化する可能性は低いと思います。ただ、子ども達の、あるいは保護者の意見を聞くことで、「こういう意見があるんだな」という参考になると思います。

先ほどもお話したように、「いつするか」ということが非常に大事だと思います。委員会で検討を始めた時点でアンケートを実施し進めていくのがベストだったかもしれません、まずは、アンケートを実施する時期について整理したいと思いますが、皆さんいかがですか。

〔委員 A〕

アンケートを実施するなら、なるべく早くがいいと思います。アンケート調査の依頼文に「学校再編の検討資料としてのみ活用させていただきます」となっていますし、子ども達や保護者の意見は参考として活用するということですので、もしアンケートを実施するのであれば、できるだけ早急にすべきだと思います。

また、さきほどネットで公表するという事務局の回答がありました、学校再編の検討資料としてのみ活用するのであれば、本委員会限りで活用するという解釈もでき、そちらの方がいいのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

〔委員 H〕

学校再編の検討資料として活用するという考え方もあると思いますが、学校再編の方針が全て決まった後、「こういった結果になりましたが、どう思いますか」と、未来のことをアンケートで尋ねた方がいいと思います。

〔委員 D〕

アンケートの差出人は教育委員会ですが、公表するのであれば、「結果を市のホームページに公表します」といった一文があるべきだと思います。

〔事務局〕

そのような一文があっても良いかなと思います。

〔議長〕

他に、アンケートの実施時期に関するご意見はありませんか。

〔事務局〕

ご提案です。今回 4 パターンをご提案しましたが、その中で、小学生と中学生を対象とするアンケートを先行して取らせていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

この場合、アンケート結果については公表せず、本委員会の資料として限定的に活用するということになります。

〔委員 H〕

子どもの意見を知りたいということであれば、保護者と教職員へのアンケートは、現時点では不要だと思います。

〔委員 I〕

子どもの数が減ってきており、このような状況にありながら、未来のことを考えているんだという流れについては、子どもも大人も、善通寺市民すべてが知るべきだと思います。

アンケートを実施するというより、人口予測等を踏まえた現状と現時点での検討委員会の議論の内容をお知らせし、パブリックコメント的に、項目を限定せず意見ももらうのはどうでしょうか。

〔議長〕

アンケートを実施する手法として、「活動の内容を広めたい」ということで、意図的にアンケートを実施して周知するという方法もあります。

検討しているということを知ってもらうことは大事ですし、ご家庭で話をしてもらうトリガーとしてアンケートを実施するという方法もあると思います。

〔委員 B〕

市民に大きな影響を及ぼす案件なので、アンケートを取ることで意識づけにもなるし、声なき声を拾い上げるチャンスにもなるし、当事者が思っていること感じていることを拾い上げるチャンスや、親子で話すチャンスになるかもしれません。行政にクレームを言うとかではなく、市民が自分たちの意見を言える場があることは大事だと思います。

〔議長〕

タイミングについて、現時点で一度アンケートをとり、最終的な方針決定をして市長報告をする段階でこう決まりましたが皆さんはどうですかということを問うのはどうですか。

〔委員 H〕

あえて親子で話をしてもらうような内容ではないので、保護者へのアンケートは不要だと思います。

〔委員 F〕

保護者は、過程よりも結果ありきです。学校再編の動きがあることは知っているので、求めているのは、小学校がいくつになり中学校がいくつになりその場所はどこなのかということです。

〔委員 J〕

先ほどの事務局案の小・中学生にアンケートを取るというので良いのではないでしょうか。この場の意見も割れていますし、乱暴かもしませんが、多数決で決めるのはどうですか。

〔委員 D〕

小・中学生は、親のスマホなどで回答しますか。

〔事務局〕

まだ学校と相談はできていませんが、児童生徒一人に1台ずつ配付してあるタブレット端末で実施できないかと考えています。

〔委員 D〕

学校で実施するということになれば、保護者の意見が介入しないと思います。

〔議長〕

子ども達の意見はちゃんと聞く、実施するなら早い方がいい、保護者は結果ありきで見る方が多いということ、また、学校で配付している端末で実施するのであれば子ども達の生の声を聞くことができるということで、学校側の了解がでれば、学校で、タブレットを使用し、教職員がある程度説明し小中学生からアンケートを取る。その内容を1月の検討委員会の参考資料として検討する。その後、我々が出した結論を市長に報告する段階で、結果ありきの意見を保護者に聞くというのでどうですか。

この方法に賛成の方は挙手をお願いします。忖度なしでお願いします。

〔委員〕

賛成の委員の挙手

〔議長〕

では、反対の方は挙手をお願いします。

〔委員〕

反対の委員の挙手

〔議長〕

賛成多数ということで、この方法を委員会の意見として、事務局に預けます。

それでは、本日の議論はこれにて終了とします。

次回以降の開催予定ですが、12月15日、1月19日、2月16日、3月16日、同じ時間帯で実施したいと思います。皆さんお忙しいと思いますが、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

21時00分 終了